

2024年度多摩大学リテラシーレベル 自己点検・評価結果について

| 項番 | 点検項目 | 点検結果 | 評価 |
|----|---|---|----|
| 1 | プログラムの履修・修得状況 | <p>【経営情報学部】 本プログラムは2024年度以降入学生を対象としていることから、1年生のみを対象とした場合、365名中188名が履修し、修了者数は137名という結果になった。これは1年生の半分以上が本プログラムを履修し、且つ、70%を超える履修者がリテラシーレベルを修了したこととなるため、良好な結果であると評価できる。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 グローバルスタディーズ学部の本プログラムを構成する2つの授業において履修者は「AI・ゲームデジタル産業」が30名、「調査法入門:量的」が4名であった。両科目を修了した者は1名なので、ガイダンス等で履修者数を上げる改善が必要である。</p> | A |
| 2 | 学修成果 | <p>【経営情報学部】 ・本プログラムを構成する「AIの活用基礎」では、毎回の授業で課題提出を課しており、各回の講義における学生ごとの習熟度を確保する上で活用されている。 ・2024年度より本プログラムを構成する「ICTコミュニケーション入門」では、Excel表計算処理技能認定試験3級のCBT方式による試験を学内で実施することを通して、学修成果の測定を実施した。今後、デジタル教材の有効活用により、試験の合格率の向上にも努めていく予定である。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 ・「AI・ゲーム・デジタル産業」では、課題及び発表、復習テスト、期末テストを実施し、データサイエンス・AIへの理解と基礎的な能力を身につけることができています。 ・「調査法入門:量的」では、中間レポート及び期末レポートを実施し、量的データの集計方法の理解を深めている。</p> | A |
| 3 | 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | <p>【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり4.00以上の高い評価数値となったことから、ある程度の理解度が身についたものと考えている。</p> <p><評価結果> 「AIの活用基礎」 : 4.00(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 : 4.38(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 : 4.24(5段階評価) 「調査法入門:量的」 : 5(5段階評価)→秋学期VOICE到着後に差し替え</p> | A |
| 4 | 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | <p>【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり4.00以上の高い評価数値となったことから、履修済の学生が他の学生に推奨できる授業内容であったと評価できる。</p> <p><評価結果> 「AIの活用基礎」 : 4.00(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 : 4.38(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 : 4.24(5段階評価) 「調査法入門:量的」 : 5(5段階評価)→秋学期VOICE到着後に差し替え</p> | A |
| 5 | 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | <p>【経営情報学部】 項番1で示したとおり、2024年度の履修者数については良好な結果がえられている。また、当該プログラムを構成する科目である「AIの活用基礎」を、2025年度より1クラスから2クラス編成に見直すことで、履修者の増加を図っていく。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」が30名、「調査法入門:量的」が4名であることから、特に「調査法入門:量的」の履修者増に向けた取り組みを行う。</p> | A |
| 6 | 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | <p>【経営情報学部】 本プログラムを修了した学生が企業等に就職するのは、令和10年以降となる。なお、当学では、卒業生の就職先に対し、卒業後アンケートを毎年実施している。当該アンケートを用いて、今後、リテラシーレベルの修了者の状況の把握と分析を行っていく予定である。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 当該プログラムが開発されたのが、令和6(2024)年度であり、まだ卒業生はなく、今後の取り組みとなる。今後、卒業時には可能な範囲で進路等の評価を実施する予定である。卒業後の企業等に調査をし効果の検証を実施していく。</p> | B |
| 7 | 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | <p>【経営情報学部】 2024年度は小田急不動産株式会社と多摩市にご協力頂き、アンケート及び情報交換会を実施した。今回は、DXの重要性に関する意見があり、具体的にはAIを活用できる人材の育成が求められていることについて情報共有した。今後、本プログラムに関しても、産業界からの具体的な意見を確認していきたい。</p> | B |
| 8 | 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | <p>【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業内容が興味深く触発されることが多い」の項目について、プログラム構成科目の状況は概ね4.00に近い評価数値となったことから、概ね達成できたと考えている。</p> <p><評価結果> 「AIの活用基礎」 : 4.00(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 : 3.96(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 : 4.10(5段階評価) 「調査法入門:量的」 : 5(5段階評価)→秋学期VOICE到着後に差し替え</p> | A |
| 9 | 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みを含む | <p>学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「学生(院生)の理解水準を踏まえた説明をする」の項目について、プログラム構成科目の状況は概ね4.00に近い評価数値となったことから、概ね達成できたと考えている。</p> <p><評価結果> 「AIの活用基礎」 : 3.91(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 : 4.07(5段階評価、※クラス平均値)</p> <p>また、担当科目報告書から、2025年度は以下の改善の取組みを検討中であることを確認した。 <改善取組検討内容> 「AIの活用基礎」 : 復習に効果的な動画教材を提供できるように準備する。 「ICTコミュニケーション入門」 : Windows/パソコンを前提とした授業であるため、Mac/パソコンの利用は不可とする対応を徹底したい。</p> <p>【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 : 3.76(5段階評価) 「調査法入門:量的」 : 5(5段階評価)→秋学期VOICE到着後に差し替え</p> <p><改善取組検討内容> 「AI・ゲーム・デジタル産業」 : アクティブ・ラーニング手法を用い、授業内容について学生が自ら調べ、考えたうえで、授業内で発表することにより、AI・データの利活用に対する理解をさらに深め、より高い教育効果を目指している。 「調査法入門:量的」 : 計量経済学の手法を学習する上で前提となる推測統計学に関する教材を準備し、講義における学習の入り口とする。</p> | A |

※【評価記号】

- A: 点検項目の内容が達成されている。
- B: 概ね達成されているものの、改善の余地がある。
- C: 達成されていない。

2024年度多摩大学応用基礎レベル 自己点検・評価結果について

| 項番 | 点検項目 | 点検結果 | 評価 |
|----|---|--|----|
| 1 | プログラムの履修・修得状況 | ・本プログラムは2024年度以降入学生を対象としており、且つ、応用基礎を構成する科目の一部は、配当年次を2年生以上に設定していることから、令和8年度以降の数値的な成果を期待するものである。 ・2025年度からは、本プログラムの構成要素であるAI活用基礎の科目を1クラスから2クラスに編成を見直すことで、履修者の増加を図っていく予定である。 | B |
| 2 | 学修成果 | ・本プログラムを構成する科目では、レポートの提出だけでなく、グループワークの成果発表や制作したプログラムの相互評価等、様々な切り口で学修成果の見える化を図っている。 | A |
| 3 | 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり概ね4.00に近い評価数値となったことから、ある程度の理解度が身に付いたものと考えられている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.00(5段階評価) 「IT活用法」 :4.29(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :3.90(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :4.39(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.07(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.20(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.33(5段階評価) | A |
| 4 | 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから、履修済の学生が他の学生に推奨できる授業内容であったと評価できる。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.00(5段階評価) 「IT活用法」 :4.29(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :3.90(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :4.39(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.07(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.20(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.33(5段階評価) | A |
| 5 | 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | ・本プログラムは2024年度以降入学生を対象としており、且つ、応用基礎を構成する科目の一部は、配当年次を2年生以上に設定していることから、令和8年度以降の数値的な成果を期待するものである。 | B |
| 6 | 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | 令和10年度以降は本プログラムを修了した卒業生が企業等に就職するようになる。なお、当学では毎年、卒業後アンケートを通して、卒業生の就職先へのヒアリングを行っている。今後、当該アンケートを用いて修了者の企業評価の分析と改善へのフィードバックを行っていく予定である。 | B |
| 7 | 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | 2024年度は小田急不動産株式会社と多摩市にご協力頂き、アンケート及び情報交換会を実施した。今回は、DXの重要性に関する意見があり、具体的にはAIを活用できる人材の育成が求められていることについて情報共有した。今後、本プログラムに関しても、産業界からの具体的な意見を確認していきたい。 | B |
| 8 | 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業内容が興味深く触れられることが多い」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから当該項目は概ね達成できたと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :4.00(5段階評価) 「IT活用法」 :4.22(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :3.73(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :4.17(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.04(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.04(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.24(5段階評価) | A |
| 9 | 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みを含む | 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「学生(院生)の理解水準を踏まえた説明をする」の項目について、概ね4.00に近い高い数値となったことから当該項目は概ね達成できたと考えている。 <評価結果> 「AIの活用基礎」 :3.91(5段階評価) 「IT活用法」 :4.10(5段階評価 ※クラス平均値) 「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」 :4.14(5段階評価) 「データベースⅠ(Access)」 :4.22(5段階評価) 「マーケティングデータ分析」 :4.02(5段階評価) 「マーケティングデータ分析実践」 :4.04(5段階評価) 「先端情報技術概論」 :4.37(5段階評価) なお、本プログラムの各科目における取組み内容を以下のとおり記載する。 <取組み内容> ・「AIの活用基礎」では、事例紹介を交えた授業を心掛けている。取り扱うテーマは「ビッグデータ」「機械学習」「IoT」「データ分析」等、多岐にわたり、多くの学生の学習意欲を引き出すことを意識している。 ・「IT活用法」では、プログラミングの実践授業だけでなく、定期的な学生によるプレゼンテーションを行い、各学生が相互に修得した知識の共有化ができるよう促すようにしている。 ・「データサイエンスⅠ(データ利活用の基礎スキル)」では、統計検定の受験を強く推奨することで、学修目標の明確化を図っている。 ・「データベースⅠ(Access)」では、ビジネスシーンでのトレンドを意識し、扱う教材やテーマを考えながら授業運営を行っている。 ・「マーケティング・データ分析」は、データ収集・分析結果のとりまとめ・報告資料作成までの一貫したプロセスを各学生が一人で完結できるよう、その計画段階から丁寧に教育している。 ・「マーケティング・データ分析実践」は、グループワークによるデータ収集・分析を課しており、チームで取り組むデータサイエンスの楽しさを重要視している。 ・「先端情報技術概論」は応用事例の紹介にとどまらず、ディスカッションを通じて新たな情報技術サービスの可能性を考えることに力を入れている。 | A |

※【評価記号】

A: 点検項目の内容が達成されている。

B: 概ね達成されているものの、改善の余地がある。

C: 達成されていない。